

八女高で未来の自分探し

異文化交流事業国際交流事業

オーストラリアホームステイ

7月31日(火)～8月12日(日)の13日間のオーストラリア海外研修に1年生15名と2年生5名が参加しました。ホームステイをしながら、現地のヒルズ学園での語学研修の他、クイーンズランド大学訪問など、現地でしか得られない大変貴重な経験をしました。



ヒルズ学園にて



英語の授業の様子



クイーンズランド大学にて



カンガルーとのふれあい



街でショッピング

東京研修

8月8日(水)～8月10日(金)に、2年生の希望者32名が東京研修に参加しました。企業や大学訪問に加え、本校OBの江崎東大大学院教授やANA現役パイロットの塚本機長、東京同窓会のOBの方々ともお話しする機会を得ました。



江崎教授と東大赤門前にて



OBのANAパイロット塚本さん



お台場にて



スカイツリーにて



JFEスチール訪問

最先端技術者養成事業



九州大学水素ステーション前にて

11月7日(水)最先端技術者養成事業を行いました。今年度は九州大学と玄海エネルギーパーク方面と、北九州大学と新小倉火力発電所方面の2グループに分かれ、研修を行いました。普段は目にすることができない最新の施設を見学させていただきました。

異文化交流事業



西南学院大学にて

11月13日(火)異文化交流事業として1、2年生の希望者40名が西南学院大学を訪れました。施設見学の後、外国からの留学生たちと日本文化の伝統や文化について等、すべて英語で会話をしました。

<シリーズ OB紹介 (第5回)>

樋口 善造



★プロフィール

昭和23年 坂本繁二郎氏に師事
昭和24年 高1回卒業
昭和29年 東京芸術大学油絵科安井教室卒業以来、日展連続12回入選、光風会会員
昭和58年 ドイツ観光局の依頼で家族と共にドイツへ光風会退会
平成6年 帰国、後進の指導に当る
平成16年 八女市黒木町に移住、現在に至る

樋口氏は八女高校の校章を在学中にデザインされた方です。このことは氏の誇りとなっております。

昭和58年、ドイツ観光局の依頼で家族とともに渡独。デュッセルドルフを拠点にメルヘン街道を写生し、ベルリンのドイツ文化会館で発表するなど10年間、ヨーロッパの風景を描き各地で発表されました。

帰国後、東京都東大和市に居を構え、平成16年には八女郡黒木町に移住され、八女を中心に九州の風景を明るいタッチで描き続けていらっしゃいます。

「青春とは人生の或る期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ。年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。歳月は皮膚のしわを増すが、情熱を失う時に精神はしぼむ。人は信念と共に若く、希望ある限り若く、失望と共に老い朽ちる。」(サムエル・ウルマン)の言葉や「初志貫徹」を信条にいらっしゃいます。

現在は100歳まで絵を描き続けること、さらに「芸術家としての集大成なる大作を残したい」と変わらぬ情熱とチャレンジ精神を持って、日夜全力投球で、キャンバスに向かっていらっしゃいます。

最後に、「たとえ貧乏でも死ぬ前にこの道で良かったと思えるよう、希望に邁進し変更することなく頑張ってください。さらに、人との関係があって人生は豊かになるもので、自分の生き方に誇りを持ってほしい」と、在校生へのメッセージをいただきました。俳人 金子兜太(かねことうた)の「今を生き老い思わず」を实践されている誇るべき先輩です。

大場さとみ

医学博士号
脳神経外科専門医
頭痛専門医(大分県で4番目)
河野脳外科病院勤務
(脳神経外科疾患、頭痛疾患)

★プロフィール

平成6年 高46回卒業
平成13年 宮崎医科大学(現・宮崎大学医学部)卒業
宮崎社会保険病院脳神経外科勤務
平成14年 久留米大学脳神経外科入局(～H22)
平成22年 河野脳外科病院(大分市)勤務

大場氏は高一の夏、甲状腺を患われ地元の総合病院に入院されました。それを機に医師を志され、担任や友人にも励まされ医学部へ入り、その後脳神経外科へ進まれました。医師として大学病院や関連病院で勤務されています。持病は残念ながら手術後も再発し現在も治療中ですが、それでも結婚・出産(現在長男6歳、次男2歳)され、今は母親業+医師+妻業の毎日のご様子です。

医師になられた後も環境がめまぐるしく変化されましたが、「芯がぶれないようにしていけば道は開ける」との思いは今も変わられていません。そのために「今の自分にできることは何か、何をすべきか、何を求められているのか?」ということに常に自問自答していらっしゃいます。

出産・子育てを機に、最前線の手術や救急診療からは遠ざかることになりましたが、育児の間に研究論文を書き博士号と脳神経外科専門医を取られました。臨床に復帰されてからは、頭痛に悩む人々が多いことに気づかれ、頭痛専門医として外来業務を行えば仕事と家庭も両立できると現在奮闘中です。

若い頃は漠然とした夢や希望であっても、その芯がぶれなければ道はその人の様々な状況に応じて自ずと開かれてゆくと信じ、人生を一步一步進んでいらっしゃいます。

好きな言葉はC.S.Lewisの「新しい目標を持ったり、新しい夢を見るのに、歳をとりすぎたということはない。」といつかなる時でも夢を追い、輝き続けていらっしゃるスーパーウーマンです。

部活動実績

(10月末現在)

祝 全国大会出場決定!

◎文芸部
福岡県高文祭散文部門最優秀賞
平成25年度全国高校総合文化祭(於長崎県)城 拓樹(1年 黒木中出身)

祝 九州大会出場

◎水泳部
全九州高等学校選手権新人水泳競技大会(於長崎県)
50m・100m 背泳ぎ 檀 翔太(2年 筑後中出身)
100m・200m バタフライ 溝口 滉太(2年 筑後北中出身)
50m・100m バタフライ 島崎 裕菜(2年 福島中出身)
50m バタフライ・200m 個人メドレー 田中 佑佳(1年 筑後中出身)
50m 背泳ぎ・100m 自由形 吉岡 未希(1年 筑後中出身)
200m メドレーリレー 吉岡・島崎・田中・今村
200m リレー (1年 筑後中出身) 吉岡・島崎・田中・今村

祝 南部ブロック優勝

◎陸上競技部
第59回福岡県高等学校陸上競技対抗選手権大会 南部ブロック大会
男子 A 円盤投げ 優勝 堤 信敬(3年 黒木中出身)
女子 B 100m・200m 優勝 野口 真里(1年 筑後中出身)
女子 B 走高跳 優勝 吉武 美友(1年 筑後北中出身)

◎剣道部
平成24年度福岡県剣道新人大会予選 南部ブロック大会
男子団体 優勝 楠 充功(2年 黒木中出身)
男子個人 優勝 楠 充功

県大会出場

剣道部、陸上競技部、サッカー部、空手道部、弓道部、バドミントン部、バスケットボール部、吹奏楽部、放送部、書道部

八女高だより

平成24年度
第2号

<12月14日発行>

福岡県立八女高等学校
校長 大坪 秀美
編集 企画広報課

【本号の内容】

- ・祝 全国・九州大会出場
- ・2学期活動報告
- ・OB紹介
- ・部活動実績
- ・文化部発表会
- ・同窓会奨学金授与
- ・矢部村分収林研修
- ・立志源泉録

平成24年度 文化発表会 (平成24年11月2日)

11月2日(金)文化発表会が開催されました。開会式の後、ステージでの書道部によるパフォーマンス、ダンス部による演舞、映画部による劇、放送部による朗読、弁論部によるスピーチ、吹奏楽部による演奏の他、狂言師の野村万禄(二世)氏をお招きしました。狂言についてわかりやすく公演をいただいたことで、生徒は日本の伝統文化を身近に感じる事ができたようでした。午後は各部による展示見学の時間帯でしたが、どのブースも大変な賑わいを見せました。2度目の全体会では、海外研修報告、東京研修報告、保健委員による研究発表等が行われ、昨年にも増して、内容の詰まった、質の高い文化発表会となりました。



吉末尚生君(筑後北中)

文化委員長あいさつ 吉末尚生(2年 筑後北中出身)
本年度の文化発表会は、例年あったテーマを特に設けませんでした。参加者一人一人の感性で、ステージでの発表や報告、展示会場での作品を見ていただきたかったからです。作品から発せられるパワーをしっかりと全身で感じられたことだと思います。
今年度ご公演にお招きした野村万禄氏による狂言、私たち実行委員会制作のモザイクアート、各部の展示や発表をご堪能いただいたことだと思います。昨年にも増して、質の高い文化発表会になったと自負しています。協力して下さった皆さん、ご来場いただいた多くの皆様、ありがとうございました。



ダンス部の華やかな演舞



県大会出場の実力!吹奏楽部の演奏



放送部による絵本の朗読



映画部による上演



書道部によるパフォーマンス



大坪校長がモチーフの巨大モザイクアート



野村万禄(二世)氏の狂言講話



本校生徒も狂言を体験



弁論部のスピーチ



今年も賑わった茶道部のお点前



書道部の作品展示



美術部の作品展示



パンジージャンプ



華道部の作品展示



自然科学部化学班による実験



写真部の展示



九州・全国大会出場の文芸部



ホームメイキング部の作品展示



ホームステイの報告の展示

八女中・高同窓会奨学金交付式



下川会長と本校職員

10月3日(水)に八女中・高同窓会奨学金交付式を行いました。これは毎年在校生に対して同窓会より贈られるものですが、平成17年度大同窓会当番幹事(高27回卒)の時より始まったものです。
「態度・行動が本校生徒の模範となり、将来社会人としての活躍が見込まれる者」を対象とし、原則として各学年3名、合計9名が採用されます。
交付式では下川泰同窓会会長より生徒一人一人に交付決定通知書が手渡され、「同窓生の気持ちが入った奨学金です。自分の夢をあきらめずに志を高く持って頑張ってください。」と励ましの言葉を述べられました。

矢部村分収林研修

11月9日(金)に本校の生徒会執行部10名それに本校職員4名が矢部村分収林研修を行いました。これは本校と分収契約を結んでいる矢部村の森林において、生徒たちが下草刈りや間伐等の作業体験を行うもので昭和15年より続く伝統ある活動です。
八女市役所矢部支部の建設経済課長さんや森林組合矢部支所長さんから「山林が果たす役割」と「分収林の現状」についての講義を受けた後、立っているのも大変な急斜面でヒノキの間伐作業をしました。
生徒執行部の北島将暢君(1-2)は「泥まみれになりながら、とても良い経験ができました。」と研修終了後に達成感を語ってくれました。



全員で記念写真



急な斜面での作業

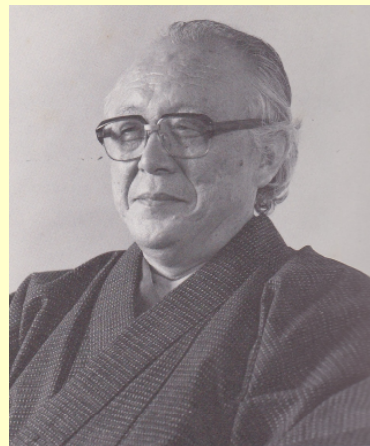
立志源泉録(りっしげんせんろく) シリーズ第2回

このコーナーでは10回シリーズで八女高出身の偉人にスポットを当て、お一人ずつ紹介します。第2回目は日本でも有数の伝記小説家である小島直記氏です。

こじまなおき

小島直記(中学25回卒) 大正8年5月1日 八女郡福島村(現八女市)生まれ

大正8年5月1日八女郡福島町(現八女市)生まれ。八女中を経て、東大経済学部卒。海軍に入り、主計大尉で終戦。戦後、母校八女高の教師として、社会科を教えた。その後、ブリジストンに入社、サラリーマン生活をしながら執筆した「人間の椅子」が芥川賞候補(昭和30年)となり文壇デビュー。「人間勘定」「福沢山脈」「まかり通る一電力の鬼・松永安左衛門」「小説三井物産」「異端の言説-石橋湛山」など近代日本の形成期に活躍した経済人や政治家の生涯を描き、伝記小説家の第一人者と呼ばれる。詩人、評論家として活躍した松永伍一(高1回)は八女高教師時代の教え子であり、詩人の柿添元(中23回)も親しい文学仲間。「九州文学」を主宰するなど、九州の文学界にも足跡を残した。八女市の八女公園内に文学碑、静岡県長泉町に小島直記文学館、伝記図書館がある。平成20年9月14日、神奈川県逗子市で死去。89歳。



昭和61年9月

平成24年度下半期
八女高ポスター完成!

